

高校生(中学生)部門



兵庫県立尼崎西高等学校 放送部

あなたがいたから

◎プロデューサー／中川 航志

◎ディレクター／大下 真智子

[8分]

●制作意図

私たちは普段、校務員さんの仕事について深く考える機会はありません。しかし、学校生活は目立たない場所で支えてくださる方々のおかげで成り立っています。池田さんは校務員として学校を支えるだけでなく、高校時代に目の病をきっかけに出会った三味線を通して、生徒にも多くのことを伝えてくださいました。本作品では、退職までの最後の一年に密着し、日々の仕事や生徒との関わりを取材しました。何気ない日常の中にある優しさや、人を支えることの大切さに気付いてもらいたいという思いで制作しました。また、池田さんが学校に残した「証」が、生徒たちの心にどのように受け継がれていくのかを伝えられる作品を目指しました。

●あらすじ

尼崎西高校で12年間、校務員として学校を支えてきた池田祐司さん。中庭の手入れや校内整備など、その姿は普段、生徒の目に留まることは少ないです。しかし、目の病をきっかけに三味線と出会い、今では生徒に和楽器を教えています。本作品では、退職までの最後の一年に密着し、見えない場所で学校や生徒を支え続けた池田さんの想いと、学校に残した“証”を描いた。当たり前の日常が、誰かの支えの上に成り立っていることを伝えたくて制作しました。

高校生(中学生)部門



錦城高等学校 映画研究部（東京都）

見えない公害

◎プロデューサー／中川 穂香

◎ディレクター／羅婉 清

[9分]

●制作意図

2022年度から、全国の高校で「総合的な探究の時間」が必修化されました。しかし現時点での課題は多く、特に専門家への取材に関して、放送関係者である私たちにも見直すべきことがあるのではないかと考えました。高校生として私たちは新しい科目とどのように向き合うべきなのか、そして、放送に携わる人間としてどのような意識を持つべきなのか。「探究」を通して、取材のあり方について考えるきっかけとなるような作品を作りました。

●あらすじ

近年高校で必修化された新しい科目である「探究」。私たち錦城生の中には、この「探究」に前向きに取り組んでいる生徒もいれば、勉強など、多忙な高校生活の中で、探究活動に十分に向き合えていないという生徒もいます。取材を進めていく中で、大学の先生方や専門家の方の中に、中高生の探究活動の協力を負担に感じている方がいるという、「探究公害」という現象の存在を知りました。私たち映画研究部も多くの専門家の方にご協力いただいて作品を制作しているので、私たち自身の活動が「公害」と呼ばれないよう、探究そのものを問い続けていくことが必要であると考えました。

高校生(中学生)部門



桜丘高校 放送部（三重県）

生理はポジティブ！？

◎プロデューサー／門屋 奏来

◎ディレクター／門屋 奏来

[13分]

●制作意図

テレビドキュメントを制作するにあたり、私達制作班自身がたくさん行動をしたことです。生理や性教育に対して知識がほとんど無かった私達が、同世代に伝えることを目標に様々な方法で情報を集めました。そしてその情報を、どうしたらより多くの人に伝わるだろうかと班内でも話し合いました。このプロジェクトを始めなかったら、調べることもなかったと思います。番組を視聴する際は、私達の活動に注目して見ていただけると嬉しいです。

●あらすじ

「生理なんて大嫌い」。そう考える高校生は決して少なくありません。私たちは、生理をポジティブに捉える考え方を広めようと活動を始めました。しかし、今までの価値観で育ってきた高校生へ伝えることはできませんでした。そこで未来の高校生を変えたいという思いから、小中学生や地域へ活動を広げます。イベントに出展した際には、子どもが興味を示しても大人が止めてしまう場面に直面しました。生理や性教育がタブー視される社会の壁にぶつかりながらも、私達高校生が次の世代へ伝えようとする挑戦をします。

高校生(中学生)部門



SABR 宮城県仙台第三高等学校

放送部

声の落書き、つなぐ未来

◎プロデューサー／大内 義久

◎ディレクター／赤間 日音、阿部 脩平

[9分]

●制作意図

近年、若者の「ラジオ離れ」が進んでいます。簡単に手元のスマートフォンで情報を得たり、ショート動画を見たりと、メディアは「映像があって当たり前」と思う人も少なくありません。しかし、本当にそうなのでしょうか。ラジオは、ただの「不便なメディア」なのでしょうか。

この番組を通して、まだ見ぬラジオの面白さ、そして声がつなぐラジオの未来に思いを馳せていただきたく、私たちはこの番組を制作しました。

●あらすじ

仙台三高には、ラジオを愛する生徒がいます。
先日、本校放送部部長の阿部脩平さんが、校内でラジオ番組を放送しました。本校には、定期的に行われる校内放送がなく、その実現までの道のりにはさまざまな障壁がありました。それでも脩平さんは、幼少期から共に過ごしたラジオへの愛を捨てることなく、ついに本校史上初めての校内放送を実現させますが…。脩平さんを突き動かす「ラジオへの熱い想い」を追いました。

高校生(中学生)部門

FBC（千葉県立船橋高等学校
放送委員会）

10円から夢が買える店

10円から夢が買える店

◎プロデューサー／紀室 梁平

◎ディレクター／千葉 淳裕、飯沼 宗哉

[19分]

●制作意図

私たちはこの作品を通して「繋がりによって生まれる幸せ」を表現しました。今回取材した駄菓子屋さんは、学校を終えた子どもたちや小さな子供を連れた親子だけでなく観光で訪れる旅行者や子どもの頃から通い続ける常連さんなど色んなお客さんが訪れます。子どもたちにはちょっとしたワクワクを、大人のお客さんには子どもの頃を懐かしむことができる場所を提供しているのです。「10円から夢が買える店」というモットーのもとで30年間お客さんを楽しませてきたこのお店。開店当初からの変わらない温かな雰囲気の中で育まれる人々の笑顔と繋がり、そしてそんなお店を作ってきた店主の思いをぜひこの作品を見る方に伝えたいです。

●あらすじ

千葉県船橋市にある「駄菓子屋リュウくんのおみせ」という駄菓子屋さんを取材したドキュメンタリー番組です。昔ながらの雰囲気を纏う一見普通の駄菓子屋に見えるこのお店ですが駄菓子だけでなく、店主や常連のお客さんとともに編み出してきた「創作駄菓子」を始めとした、普通の駄菓子屋さんとは違うおもてなしを提供しています。そんなこの「駄菓子屋リュウくんのおみせ」には近所の子供達だけでなく大人たちも訪れます。

このお店に集まる子どもたち、そして大人たちそれぞれにとってここはどんな場所なのか、そしてそんなお店が持つ思いとは。商売の域にはとどまらない、人間味あふれるこのお店の魅力を取材しました。

高校生(中学生)部門



福島県立相馬高校 放送局

原発と教育

◎プロデューサー／横山 斎

◎ディレクター／横山 斎

[8分]

●制作意図

「原子力明るい未来のエネルギー」という標語の看板が双葉町には掲げられていた。今となっては空しく響く「未来」の文字。この看板のレプリカを見て抱いた違和感の正体を探るため、取材を始め、高校生の視点から番組を制作した。

●あらすじ

「原子力明るい未来のエネルギー」という標語を書いた大沼さん(当時小学生)にインタビューし、国策に教育が利用されたことが分かった。現在は被災地の「復興」にも若者は利用されている。そしてそのことが見えづらい構造が日本にはある。この負の歴史について描かれた作品である。

高校生(中学生)部門

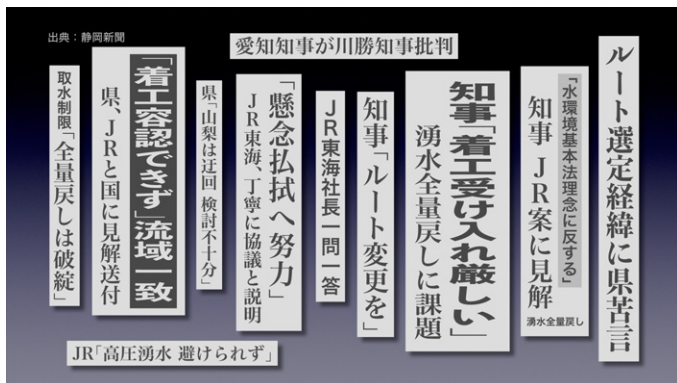
静岡大成高等学校 放送部

メディアは何を伝えたのか

◎プロデューサー／福井 雫

◎ディレクター／福井 雫

[8分]



●制作意図

私たち放送部では、2014年に南アルプストンネル建設に伴う大井川の水問題に関するテレビ番組を制作して以来、その後経過をずっと追いつけ、新聞報道をまとめてきました。ところが、いつしか報道の基軸が、静岡県知事とJR東海との対立、また県知事個人に対する報道へと移り、当事者である住民が置き去りにされてしまったように感じました。どうしてそのような報道形態になってしまったのかを検証するためにこの番組を制作しました。

●あらすじ

私たちは水資源の豊富な国に生まれ、普段からその大切さを意識することはあまりありません。ところが、渇水や災害が発生し、失って初めて気付くことがよくあります。

リニア中央新幹線の南アルプストンネル建設に伴う水涸れ問題については、何度も新聞などのマスコミで取り上げられてきました。しかし、当事者である県民の立場からいうと、その報道の仕方にクセがあり、それ故、報道が問題の本質から外れていく感覚がありました。普段から電波・紙・ネットなど様々なメディアから情報を受け取る私たち。それぞれのメディアの特性と向き合いながら、どうメディアリテラシーを高めるべきなのか、ということを考える番組です。

高校生(中学生)部門



梶山女学園高等学校（愛知県）

色がつなぐ平和への思い

◎プロデューサー／岡田 奈々

◎ディレクター／神谷 美来

[11分]

●制作意図

生成AIを用いた「太平洋戦争中の写真のカラー化」という高校生の取り組みを通して、視聴者に戦争を「自分ごと」として捉えてほしいと考えた。カラー化することで、戦時中の学校生活がよりリアルに伝わり、遠い過去を身近なものとして感じられるようになる。戦争体験者が減っていくなかで、この取り組みは、若い世代が戦争について考えるきっかけの一つとなることがわかった。一方で、白黒写真のカラー化によって当時の状況が鮮明になっても、戦後80年以上がたって戦争体験者の記憶はどんどん薄れてしまっている現実。カラー化が戦争体験者から高校生へ戦争の記憶と平和への思いをつなぐ大切な役割を果たしたことを伝えたい。

●あらすじ

平和活動に取り組む本校の生徒3人が、生成AIを使って学校に残る太平洋戦争中の写真のカラー化に取り組んだ。色彩を取り戻した写真は、当時の生徒たちの日常を鮮やかによみがえらせ、遠い過去だった戦争をより身近なものとして感じさせる。完成した写真を当時を知る卒業生に確認してもらうが、戦後80年以上が経ち、その記憶は少しずつ失われつつあった。カラー化をきっかけに生まれた高校生と戦争体験者との交流によって、戦争の記憶と平和への思いを次の世代へ託したい体験者と、それを受け継ごうとする高校生たちの思いがつながった。

高校生(中学生)部門



兵庫県立龍野高等学校 放送部

起立、気をつけ、
礼、走れ！！

◎プロデューサー／和田 梨沙

◎ディレクター／和田 梨沙

[8分]

●制作意図

私たち高校生が学校で授業を受けるときに必ずある教室移動。特に龍野高校2年2組が体育を受けるときには、階段を下りて棟を移動し、階段を上がって更衣、そして1階まで移動して靴を履き替え、また階段を上ってグラウンドに行く大移動があるのだ！これを先生たちは休み時間の10分間ですることを求めてくる。これは仕方のないことなのか。この番組を通して、誰もが経験したことのある教室移動をみなさんも振り返ってみてほしいです。また私たちは、どうすれば見る人に楽しんでもらえるかを常に考えながら制作し、細かい編集にもこだわりました。臨場感ある映像や高校生のリアルな視点にも注目です。

●あらすじ

龍野高校生の悩みは教室移動で走らなければいけないということ。実際に一番長い教室移動の時間を計ってみると私たちが休める時間はたったの1分8秒しかない。教育委員会の方に教室の場所を変えられないかと話を聞いたり、移動の少ない理想の時間割を考えて先生に提案してみたりした。しかし人と場所の制限から私たちの提案は却下されてしまう。行き詰った私たちはあと1分といつも急かす体育の先生に私たちの移動を体験してもらうことにした。私たちはその中で先生の叱責は私たちへの愛であり、生徒と先生という立場の中で互いに歩みより、理解することの大切さに気付く。

高校生(中学生)部門



中越高校 放送部（新潟県）

作って、支えて、
支えられて。

◎プロデューサー／高野 大地

◎ディレクター／高野 大地

[10分]

●制作意図

新潟で義肢装具士として働く鈴木啓太さん。人に寄り添う事にこだわる鈴木さんのカッコよさや、人を支える事の大切さを伝えたいという思いでこの番組を制作しました。この番組を見て、義肢装具士という仕事の存在を知り、興味を持ってもらえれば幸いです。

●あらすじ

新潟で義肢装具士として働く鈴木啓太さん。作りっぱなしの装具ではなく人に寄り添う事にこだわる装具士を目指しています。その方針の違いから一度会社を辞めてしまいましたが、家族の支えもあり独立開業して今に至っています。新潟の車いすバスケットボールチームのメカニックとしても選手を支え、チームの天皇杯出場にも貢献しました。また、大学の講師として未来の義肢装具士となる学生を支えます。自ら天職と語る義肢装具士として、多くの人の笑顔に貢献しています。

高田高校 放送部（三重県）

内職率82%の箱の中

◎プロデューサー／仲島 朱優

◎ディレクター／仲島 朱優

[10分]

内職率82%の
箱の中

●制作意図

私たち高田高校の生徒の間で、密に行われている「内職」。
その経験者は82%に達します。
課題や小テストに追われている」「受験に不要な科目の時間を有効活用したい」など、
理由は様々ですが、多くの生徒が日々、独自の効率化を図りながら内職を
行っています。

AIの台頭によって時代が急激に変化する今、社会で求められる力とは何でしょうか。
学校の枠組みに縛られず、自ら時間をコントロールしようとする「内職」の実態から、
現代の高校生の学びのあり方、そして未来に必要な力を見出すため、私たちは
この活動を始めました。

●あらすじ

私たちの高校で密に行われている「内職」、内職とは授業中にその授業とは
関係のない勉強をすること。アンケートを実施したその数は82%に及びます。
なぜ内職をしてしまうのか。内職の目的とは？

先生にバレないように工夫を凝らす生徒と、内職に疑問を呈する先生たちを
取材しました。

内職で試験の成績を上げることや大学受験のための土台づくりが学びの
本質なののでしょうか。

専門家たちの意見を伺い、AIが台頭し急激に変化する今、
未来を担う私たちが社会で求められる力とは何でしょうか。

高校という小さな箱の中での授業と現代の高校生の学びには矛盾や葛藤が
ありました。内職の先にこれからの学びを考えてもらう作品になりました。